

第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく病院整備計画の整備計画報告書

- 1 医療機関名：医療法人社団 草芳会 三芳野病院
- 2 所在地（開設予定地）：埼玉県入間郡三芳町北永井890-6
- 3 整備する病床の機能・数

【変更後】 整備計画病床 12 床

医療機能*	病床機能報告区分	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数
救急医療	急性期	一般	急性期一般入院料	97
回復期機能	回復期	一般	地域包括ケア入院医療管理料	12
計	—	—	—	109

*回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

【変更前】 整備計画病床 12 床

医療機能*	病床機能報告区分	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数
救急医療	急性期	一般	急性期一般入院料	97
回復期機能	回復期	一般	回復期リハビリテーション料	12
計	—	—	—	109

見直しに当たっての考え方、変更後病床数の根拠

(※客観的データを用いた根拠(例：受入患者数×平均在院日数÷365)を記載してください。)

当初、回復期で申請したが、医療従事者の確保の都合上、地域包括で申請を行う。今回の増床をする以前から、他の急性期病院の受皿としてのポストアキュート機能と在宅や介護施設等から直接受け入れるサブアキュート機能を積極的に行ってきた。また、リハビリテーションに対するニーズを充足すべく、運動器リハビリテーション料Ⅱと脳血管リハビリテーションⅡの算定を平成30年6月より開始しており、それぞれリハビリテーション料Ⅰへの引き上げを目指している。又、夜間休日救急において、平成30年7月から当直医の紹介料を変更するなどし、急患を断らない環境づくりも行ってきた。今回の整備計画ではポスト・サブアキュート機能増強を図り、当院が地域包括ケアシステムの構成に貢献していくことを目的とし12床の増床を目指している。下記に増床数の根拠を示したい。

当院では、ポストアキュート機能として、昨年度、他医療機関から年間80名の受

入れに至らなかった患者がいた。又、地域包括ケア病床の増床により、近隣急性期医療機関からの受入れ増を90名以上と見立てている。よって、『受入れ患者数』×『平均入院日数』÷365日=増床可能病床数 を基に計算をすると、(80名+90名)×(26.4日[平成28年度入院医療等の調査より])÷365=約12床の増床が出来ると仮定される。その他、サブアキュート機能として地域の介護施設、障害者施設、居宅介護支援事業所、地域包括ケアセンター、訪問診療医等々との連携を深めていき、更なる患者の受入れ増を目指すことが出来る。

今回の増床においては既存建物を最大限に活用する方向で増床を目指たく、4階会議室と物品庫の改修をする事で12床を自院内に設ける事が可能であり、当院では整備計画病床数を12床としている。

4 スケジュール

	項目	完了(予定)年月
1	開設(変更)許可(医療法)	令和1年10月
2	建築(着工)	該当なし
3	建築(竣工)	該当なし
4	医療従事者の確保	該当なし
5	使用許可(医療法)	令和1年10月
6	開設(増床)	令和1年11月

5 整備方針、目標

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

地域の方々が調子の悪いときに気軽に来られる病院であること。それには専門科目に関わらず患者さんを診ることです。専門外だからと断るのではなく、まずは診察して、最適な診療科や病院を判断して紹介することを大事にしています。しっかり検査をして、大きな病気があれば早く見つけて高度医療機関につなげる窓口的な存在になればと思います。

○新たに担う役割

- ・ポストアキュート・サブアキュート機能の増強に伴う患者の受け皿拡充
- ・リハビリテーション機能の増強とソーシャルワーキングの円滑化による近隣の在宅復帰率の向上

○将来の方向性

病院の今後の方向性としては、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムに積極的に関わっていくことをメインに、在宅医療にも力を入れていき

たいと思っており、訪問診療の専門セクションと訪問看護ステーションを立ち上げたい。最期は病院より自宅で迎えるという流れになっていますので、医療を通じてその手助けができればいいかなと思います。地域のニーズに応えられる病院であり続けることが大切ですから、そうしていきたいと考えています。

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

当院では、現状脳外科・外科等の緊急手術を要する患者に対して対応が難しく、他医療機関へ紹介している状況です。また高度急性期を脱した患者の紹介や施設・在宅等の緊急時受け入れにスムーズな対応出来ていないケースがあり、今後は、地域連携を深めると共に地域の方の受け入れに力を注いでいきたい。

【増床病棟】（※有床診療所についても準じて記載してください。）

病棟名	病床数	病床機能報告区分	平均在院日数	病床利用率
地域包括ケア 病棟	1 2 床	急性期		
	一般	入院基本料	急性期一般入院料 5	
診療科 整形外科, 内科, 婦人科, 循環器内科, 呼吸器内科, 外科耳鼻咽喉科, 眼科, 皮膚科, 精神科, 泌尿器科, 麻酔科, リハビリテーション科				
患者の受入見込み （※名称、数値（人数、病床数に占める割合）について具体的に記入してください。）				
【増床前】 平成30年度 実績 他医療機関より 4 2 2 名の受入れ （95 医療機関） 三芳野第2病院…53名 イムス三芳総合病院…25名 イムス富士見総合病院…25名 埼玉医科大学総合医療センター…23名 昭和大学病院…19名 所沢中央病院…17名 上尾中央総合病院…16名 TMG あさか医療センター…11名 埼玉協同病院…10名 堀切中央病院…10名 常盤台外科病院…9名 さいたま赤十字病院…8名		【増床後】 地域包括ケア病床12床(地域包括ケア病床)の増床により、当院のポストアキュートとし他医療機関からの受入れをスムーズに行っていききたい。昨年度、他医療機関から年間80名の受入れに至らなかった患者があり、それらを受け入れる方向で行きたい。併せて、地域包括ケア病床の増床により、近隣急性期医療機関からの受入れ増を年間90名以上と見立てている。 90名の内訳として、 イムス三芳総合病院…年間約25名 イムス富士見総合病院…年間約25名 上福岡総合病院…年間約20名 TMG 宗岡中央病院…年間約20名 TMG あさか医療センター…年間約20名		

入間川病院…8名
要町病院…8名
徳丸リハビリテーション病院…8名
三芳の森病院…6名
朝霞厚生病院…6名
防衛大学医学部付属病院…5名
三浦病院…5名
みずほ台病院…4名
三井病院…4名
埼玉病院…4名
多摩北部医療センター…3名
複十字病院…3名
所沢明生病院…3名
多摩北部医療センター…3名
所沢第一病院…2名
富家病院…2名
南古谷病院…2名
圏央所沢病院…2名
その他…66病院

施設より408名の受入れ

(30施設)

エムズガーデン…113名
桜荘…86名
こころ三芳…46名
みどりの郷…31名
秋桜の里…24名
ほっと三芳ケアセンター…21名
むさしの苑…16名
鶴瀬台の里…11名
みよし園…9名
アズハイム川越…8名
ふじみ野の杜…7名
ベストライフふじみ野…6名
志木の里…5名
こぶしの里…3名
上野台ナーシングホーム…3名

合計 年間約90名以上の近隣急性期医療機関からの受皿として12床を活用していきたい。

又、サブアキュート機能として地域の介護施設、障害者施設、居宅介護支援事業所、地域包括ケアセンター、訪問診療医等々との連携を深めていき、更なる患者の受入れ増を目指すことが出来る。

<p>上野台の里…3名 みよし悠生苑…2名 はるな苑…2名 エスポワール所沢…2名 その他…11施設</p>	
<p>医療（介護）連携見込み （※具体的に記入してください。）</p>	
<p>【増床前】</p> <p><u>○紹介元：</u> 埼玉医科大学総合医療センター、防衛医科大学学校病院、さいたま赤十字病院、イムス三芳総合病院、イムス富士見総合病院、所沢中央病院、昭和大学病院、上尾中央総合病院、TMG あさか医療センター、埼玉病院、多摩北部医療センター、常盤台外科病院、東京医科大学病院 …等々の66医療機関</p> <p><u>○紹介先：</u> 埼玉病院、北所沢病院、埼玉セントラル病院、富家病院、所沢リハビリテーション病院、新所沢清和病院、浅野病院、前田病院、埼玉西協同病院、林病院、清水病院 …等々の50医療機関</p> <p>桜荘、エムズガーデン、むさしの苑、上野台の里、さくらの里、こころ三芳、エクラシア川越、埼玉ロイヤルケアセンター、鶴瀬台の里、こぶしの里、マザーアース …等々の61施設</p>	<p>【増床後】</p> <p><u>○紹介先：</u> 昨年度の実績として 療養型は33医療機関、回復期は6医療機関、一般急性期は11医療機関との連携し350名が転院に至った。又、施設系は61の施設と連携し241名が入所に至った。地域包括ケア病床12床の増床により、 既に交流のある医療機関・施設等との連携を継続するだけでなく、地域のケアマネージャーや訪問看護ステーションとより連携をとる事により、在宅復帰率の向上を目指したい。</p>

6 既存病棟の概要（※有床診療所についても既存病床がある場合は準じて記載してください。）

病棟名	病床数	病床機能報告区分	平均在院日数	病床利用率
一般病棟	97床	急性期	20日	%
	一般	入院基本料	急性期一般入院料5	
診療科 整形外科, 内科, 婦人科, 循環器内科, 呼吸器内科, 外科耳鼻咽喉科, 眼科, 皮膚科, 精神科, 泌尿器科, 麻酔科, リハビリテーション科				
診療実績 ○平成30年度実績として、 『人工膝関節置換術』『人工関節置換術』『脊椎手術』『骨折観血的手術』等の整形外科の手術件数450件、救急外来から緊急入院の受入れ件数257名、在宅復帰率41%、平均在院日数19.45日、病床稼働率88.7%、 ○当院では、本年度4月よりリハビリテーション科へ4名のスタッフを増員したことで、5月より『脳血管疾患等リハビリテーション料（I）』へ引き上げた。今後は内科疾患の患者に対して、急性期病棟で早期介入を目指していく。又、6月に1名・8月に1名のソーシャルワーカー増員を予定しており、『入退院支援加算1』への引き上げを目指している。				

7 医療従事者（※確保予定の人員には、増員となる人数を記載してください。）

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	2	27	5.9	0	0	0
看護師	32	27	17.7	0	0	0
その他	63	24	13.9	0	0	0
計	97	78	37.5	0	0	0

確保状況・確保策、確保スケジュール

(※確保予定の人員について、確保策等を具体的に記載してください。)

当院では、地域包括ケア病床12床増床に向け下記の通り増員を予定している。

【理学療法士】2019年4月…2名 9月…1名

【作業療法士】2019年4月…1名

【言語聴覚士】2019年7月…1名

【ソーシャルワーカー】2019年3月…1名 8月…1名

【看護師】2019年4月…4名(常勤) 6月…1名(常勤) ※随時採用

8 医療（介護）連携における課題、問題点

○急性期医療機関：「出口」となる医療機関は充足されているか

当院は、転院先の医療機関として『療養型』『回復期』『一般急性期』等を合わせ昨年度の実績として350名・66医療機関へ転院されている。又、施設等への退院も昨年度の実績として241名・61施設へ退院している。

課題として、平均在院日数の短縮があげられる。29年度の埼玉県における一般病床の平均在院日数の平均が16.2日であるのに対して、当院は19.3日と入院が長期化傾向にあるといえる。当院入院患者層は平均年齢74.6歳及び、6割以上の患者が75歳以上の後期高齢者という現状である。当院が以前よりポストアキュート・サブアキュートの機能を有している関係上「出口」となる医療機関の候補としては『回復期』『療養型』等への転院が主になっている。平成27年に社会福祉士の採用し医療福祉相談室を立ち上げるに至った。ソーシャルワークの機能強化を進め地域連携をより深めていき、地域包括ケアシステムの構築に寄与していきたい。